中友会

［発行所］
中　友　会
港区西新橋1-22-13
全日本中学校長会館202号室
東京都中学校長会事務局内
TEL　03-3504-8705
FAX　03-3504-8706

会則第２条
- 親　睦
- 互　助
- 生涯学習

http://chuyu-kai.org/

中友会ホームページは、上記アドレスまたは、「中友会」で検索してください。

「育てる」と言うこと

中友会副会長　八木　紀子

ピッカピカのランドセルを背に保護者に手を引かれ跳ぶように歩いていた新一年生。あれから我が家の前を通学している子どもたちの足音・おしゃべりを微笑ましく見送る日々が続いています。希望に満ち元気に通っていって欲しいと願いながら。これも、年齢のせいでしょうか。

六月四日、第四十九回定期総会を終えました。普段なかなかお逢いする機会がない会員ともお話を交わすことができたり、お元気な姿に触れたりと楽しい一時でした。会長を中心として、今年度の活動がスタートとなりました。会の運営では、ここ数年の課題として、幹事の数の不足がありました。従来の活動を維持推進し、一層発展させていくためには、あまりにも少なすぎることが大きな課題となっておりました。再任用制度など、定年後の勤務制度の現状から、年々幹事の委嘱が難しくなってきているのです。会の組織・運営体制を検討して参りましたが、今回の総会にて、規則の一部改訂が皆様のご理解により承認されました。今後は幹事の依頼に馳せ参じることになります。どうぞこの動きにご協力いただけますようお願いいたします。

最近、考えさせられることが多々あります。その一つに「育てる」と言うことはどういうことなのかという素朴な疑問です。植物は日々、葉の数を増やして伸びています。それは人間の仕業ではなく、植物自身が育っているのですと生物学者が書いています。植物を育んでいるものがあるとすれば、太陽の光や土や水なのです。私たちが育てているということはおこがましい言葉だったように思います。人間にできるのは、育ちやすい環境を整え、成長に必要なものを与えるだけのことなのですから。芽を出し葉を広げ、茎を伸ばして花が咲くのには、時間が必要です。「育てる」とは、それをじっと待ち続けることなのでしょう。子育てにも言えることのように思います。

子育てすることなく、卵を産みっぱなしにする魚類や虫。中には子どもを保護したり子育てをするものもいるようですが、限られた種類とのこと。強い生物にだけ許された特権のようです。子どもを守ろうとしても、親もろとも食べられてしまっては元も子もありません。本当は、すべての生物が子育てをしたいと思っているのではないでしょうか。夫婦で力を合わせ、祖父母までも参加し、地域も協力して、時間をかけて大切に子どもを育てる力を持っています。学校教育はもちろんのこと、家庭教育そして地域教育で相互に関わって相互に見守って子どもたちの成長を願っているのですが、その役割を再考する必要があるようにも思います。知識を身につけるという点だけで言えば、ウェブ配信の講座や民間の塾など、競争原理が働き、学校よりも優れているのかも知れません。また、家庭教育は保護者の熱心さ（愛情）に大きく影響を受けているように感じます。そして、一昔前なら、人生の大先輩が地域の子どもたちを叱る・説教するという自然発生的な教えを得ることができました。しかし、分業化や核家族化が進み、学校に任せっきりになってきているようで、家庭も地域も責任逃れをしてきたのではないでしょうか。人材は地域の宝であるからこそ、学校・家庭・地域が一丸となって育てる必要があると思うのです。その基本とも言うべき家庭での養育は、一人の人生の将来に大きな影響を齎すと強く実感させられています。三歳、八歳と成長の折々に重要なポイントがあるようです。

草花を育てることと同じように、できることは健やかに育つための環境を整え、必要なものを必要なときに必要な量だけを与えてあげることなのでしょう。昔の人は「作物は足音を聞いて育つ」と言っていたとのこと。一番大切なことは、常に気にかけて見守り続けることだと、先人は知っていたのですね。子どもに限らず、大人でも誰でも優しく見守っていてくれることで大きく成長できるようです。